世界を舞台に活躍する
未来のために！

進学先を決めるとき、あなたにとって大切なことは何ですか？
もし将来、日本から世界に向けて自分の考えを発信したり、
世界を舞台に幅広く活躍したりしてみたかったら、
海外の大学を視野に入れてみませんか。

GE-NET20 海外大学等進学支援

東京都教育委員会
Tokyo Metropolitan Board of Education

海外の大学に進学すると なれる自分

留学すると多くの経験をします。
その結果、自然と広い視点をもった、
自立した人間になることができるでしょう。

国際感覚が身に付く

日本からの視点だけでなく、ほかの国の人から見るとどう見えるのか。どのように感じるのか。多様な意見を聞くことで、幅広い柔軟な視点をもつことができるようになります。

日本にはない専攻を学べる

海外には映画学や観光学など、日本の大学にはあまりみられない専攻がたくさんあります。幅広い選択肢の中から興味がある専攻で学位を取り、職業につなげて理想の自分になることを目指すことができます。

語学力が身に付く

授業時間はもちろん、休み時間の会話もすべて現地の言葉。日本でも語学は学べますが、日々使用することにより生活に根差した自然な言い回しができるようになります。言葉による壁が日々なくなっていくのを感じることができるでしょう。

参加型授業で思考力や発信力が鍛えられる

海外の授業は双方向。常に意見を求められ、考えるトレーニングの連続です。プレゼンテーションやエッセイ等の課題も多いため、異文化の中で自分を主張する能力や積極性を身に付けることができます。

自立した自分になれる

保護者や日本の友達から離れて生活することで、自立心が鍛えられます。また状況に応じて、コミュニケーションをとることや協調性が必要になり、結果、どこでも生きていけるという自信が付くようになるでしょう。

世界中の友達と卒業後も交流できる

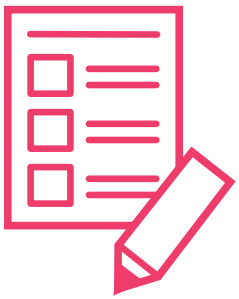
世界中から集まってくる留学生や現地の学生と友達になれ、卒業後も交流が続けられます。その結果、世界で起こっている出来事をいち早くキャッチし、互いの立場で意見交換ができるような関係性も築けます。

ホントに行ける？

ココが心配！海外の大学進学

一見ハードルが高く見える海外の大学。
自分が行くなんてムリ、と思っている人もいるかもしれません。
でも、仕組みを知って準備をすれば大丈夫！

入試



入学試験がない

海外の大学のほとんどは、書類審査で合否が決まります。入試対策の心配はありませんが、普段の勉強を頑張り、いい成績を修めておきましょう。

英語力

留学前に英語力UP！

留学生が入学するためには、規定の英語力を修得していることが必要です。多くの大学には付属の語学（英語）コースがあるので渡航してからでも英語力を高められますが、日本にいる間に英語力を高めておくことも大切です。

※国や場所により、英語以外の言語の場合もあります。

費用

保護者と相談を

学費、生活費について、保護者としっかり話し合いましょう。渡航してからも困らないよう、入学してから卒業するまでのトータル期間を考えておくことが必要です。

奨学金

留学生に向けたさまざまな奨学金があります。留学先の国や大学だけでなく、地方自治体や教育支援団体が出していることも。それぞれ条件があるので、早めに調べておきましょう。
日本学生支援機構が提供する、海外大学進学者を対象にした給付型奨学金もあります。

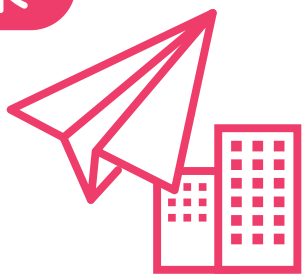
（独）日本学生支援機構
学位取得型奨学金

治安

ルールを守って行動を

大学に入学すると、安全に学生生活を送るためのオリエンテーションが行われます。そこで得た情報に従いルールを守って行動することが大切です。

将来



留学で選択の幅が広がる

最近では、海外の大学を卒業する学生向けに、採用面接や入社時期を柔軟にする企業が増えてきています。海外での就活イベントも充実しているため、リサーチや対策をしっかりと行うことで就職の選択の幅が広がります。

世界の教育制度

海外の教育制度は、日本と異なります。
海外進学等で人気の国の教育制度を見てみましょう。

イギリス

イギリスには約160校の大学・カレッジがあり、ほとんどが国公立です。大学は通常３年間で専門課程を集中して学ぶため、日本からの留学生は約１年間の準備課程（ファウンデーションコース）※ を経てから入学します。大学教育は900年以上の長い歴史があり、世界トップクラスの名門大学も数多くあります。カレッジでは職業教育に特化したスペシャリストを養成します。

情報収集に役立つサイト **Discover Uni**
https://discoveruni.gov.uk/

カナダ

大学の数は約100校。ほとんどが公立で、各大学間の差が小さいことが特徴。アメリカと同様に2年制大学と４年制大学があり、またその両方の機能を兼ね備えた大学も多くあります。カナダは「世界でもっとも住みやすい都市ランキング」でランクインする都市が多く、住みやすさも特徴の一つです。

情報収集に役立つサイト **Universities Canada**
https://www.univcan.ca/

マレーシア

大学の数は国立・私立で100校以上あり、ほとんどの私立大学では英語で授業を行っています。欧米と比較して年間の学費が安価なことが特徴の一つ。多文化・多民族国家であるため、日々、多様性を感じながら生活できます。イギリスやオーストラリアなど他国の大学へ編入することも可能です。

情報収集に役立つサイト **Education Malaysia Global Services**
https://educationmalaysia.gov.my/

アメリカ

アメリカには、公立・私立あわせて4,000校を超える大学があります。４年制大学と2年制大学があり、学べる分野が幅広く、チャレンジしやすいのが特徴です。フレキシブルな教育制度が特徴で、比較的入学しやすい2年制大学から４年制大学へ編入できる制度が整っています。また日本と違うのが専攻分野の決め方。日本では大学受験時に専攻を決めますが、アメリカでは入学後にじっくり考えて決めることができます。

情報収集に役立つサイト **College Board**
https://www.collegeboard.org/

オーストラリア

大学の数は約40校。留学生に関する教育の権利や環境を定めたESOS法など、国を挙げて体制づくりを行い、海外からの学生を受け入れています。大学はイギリス同様１年間の準備課程（ファウンデーションコース）※ や、パスウェイと呼ばれるコースを経て進学をします。日本から近い英語圏の国で、時差が少なく暮らしやすいのも特徴です。

情報収集に役立つサイト **Study Australia**
https://www.studyaustralia.gov.au/japanese/home

ニュージーランド

国立総合大学が８校、また職業に直結した教育を行う工科大学やポリテクニックが16校あります。ニュージーランド政府は教育の質を保つためにこれ以上大学の数を増やさない方針を掲げ、教育の質を審査するなどの管理を行っています。学部課程は通常３年間で、日本からの留学生は１年間の準備課程（ファウンデーションコース）※ を取るケースが一般的です。

情報収集に役立つサイト **New Zealand Education**
https://www.studywithnewzealand.govt.nz/ja

※その他さまざまな国への留学が可能です。

※準備課程（ファウンデーションコース）とは
上記3カ国では、大学は専門課程のみを教えます。そのため、事前に入学するために必要な知識を身に付けます。学ぶ内容は専攻分野の基礎知識と、リサーチ方法やディスカッション、レポートや論文の書き方などの「アカデミックスキル」と言われるもの。期間は通常１年間です。

進学スケジュール

海外の大学は、多くの場合、書類審査で合否が決まります。
大学ごとの出願対策が一部の名門大学を除き必要ないため、
日本の大学と海外の大学を併願することも可能です。

進学スケジュール

国内の大学 進学準備

高校1年生

海外の大学 進学準備

留学したい国や大学の
情報収集

高校2年生

4月
出願用テスト対策
（SAT®*などが必要な場合）

高校3年生

8月
オープンキャンパス

9月
大学入学共通テスト出願

9月以降　総合型選抜
11月以降　学校推薦型選抜

留学先の国や大学の
情報収集／英語試験対策

8〜12月
出願準備

11〜3月　出願
12〜5月　合否発表

1月
大学入学共通テスト／大学入試

卒業

3月
合格発表　卒業

3月
卒業／渡航準備

大学入学準備期間

4月
語学研修開始（語学学校）

4月
入学

大学入学

7〜9月
入学

1〜3月
入学

国や大学により入学時期が異なります。また、海外の大学には年に複数回入学時期がある大学も多くあります。

*アメリカの大学へ進学するための共通テストで、米国内の高校生は在学中に受験します。トップクラスの大学に出願する場合、留学生も受験が必要になる場合があります。

日本の大学と併願する場合の注意点

出願前の情報収集が大切
見慣れない書類の準備も

日本の大学受験準備と同時に、海外の大学の入学申請にどのような書類が必要かを各大学のウェブサイトの出願情報で調べ、早めに準備をスタートしましょう。出願時に預貯金の残高証明や、TOEFL®やIELTS™という英語の試験のスコア提出が必要な大学もあります。

知っておきたい！出願書類＆準備

少しずつ進めたい出願準備。
以下のほかに高校の成績や取得単位も大切です。
また、履修科目が重視されることもあります。
学校の成績が良いほど選べる大学の幅が広がるので、
日ごろの勉強も頑張りましょう。

英語力　まずは行きたい大学の基準到達を目指そう

入学を申請するためには、大学の授業を受けられる英語力があることを証明することが必要です。リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの４技能が求められ、ほとんどの大学でTOEFL® やIELTS™などのスコアが出願時に必要です。それぞれのスキルに必要なスコアレベルを設定している大学もあるので、希望する大学の出願条件を確認し、そのスコアに到達するための計画を立てましょう。

スコアの目安：

2年制大学　TOEFL iBT®46～61、IELTS™　4.5～5.5
4年制大学　TOEFL iBT®80～100、IELTS™　6.0～7.0

TOEFL®
アメリカをはじめ世界の大学で採用されている英語力テスト。日本ではインターネット版のTOEFL iBT® テストが実施されていて、試験会場でコンピュータを使用して解答する。

IELTS™
イギリス、オーストラリアなど世界の大学や国際機関で採用されているテスト。スピーキングは対面式、その他３技能は筆記形式。またスピーキング以外はコンピュータを使って行う、Computer-delivered IELTS™ もある。

エッセイ　名文より自分らしい意見を

大学によってはエッセイが求められる場合があります。テーマは「なぜその大学に行きたいのか」「その大学でどんなことを勉強したいか」などが一般的です。自分の意見を書けるよう、エッセイを書く練習をするとよいでしょう。

推薦状　先生に作ってもらう必要も

主にアメリカの４年制大学に出願するときに、提出が求められます。その場合、担任の先生や、英語の先生に依頼しましょう。２通前後が必要となる場合もあります。英語で作成するものなので、時間に余裕をもって依頼しましょう。

その他　名門大学を狙うなら

海外の名だたる大学に合格するためには、優秀な成績や高い英語力だけでなく、さらに高校時代に取り組んだ課外活動やエッセイの内容なども重要な要素になります。またアメリカの場合、SAT® という米国内の学生が受ける試験スコアの提出が求められることもあります。

世界の大学へ
進学するのも夢じゃない!

**高校での成績が海外の大学進学への大切な要素だと知ると、諦めてしまう人もいるかもしれません。
でもこれからの頑張りで、進路の選択肢は広げられます。**

アメリカ・カナダの場合

高校を卒業したら、直接4年制大学に入学するのではなく、まず2年制大学に入学します。そこで良い成績を修めれば、夢の大学に入学することもみえてきます。

高校卒業

↓

必要に応じて大学付属の英語コースや語学学校

英語力以外すべて合格条件に達している場合は、入学時までに英語力をつけることを条件に合格内定がもらえる制度も一般的です。

2年制大学入学

- 職業訓練コース → 卒業
- 編入コース

2年制大学で良い成績を修めれば、よりハイレベルな4年制大学へ編入することができます

4年制大学入学

- 一般教養課程(約2年間)
- 専門課程(約2年間)

→ 卒業 / 大学院

イギリス・オーストラリア・ニュージーランドの場合

これらの国では大学は専門課程のみのカリキュラムとなっています。そのため日本の高校生は準備課程(ファウンデーションコース)で一般教養課程を学ぶ必要があります。この準備課程で良い成績を取ることで、ハイレベルな大学を目指すこともできます。

高校卒業

※日本からこれらの国の大学の学部課程へ直接入学するためには、IB DiplomaやイギリスのGCE-Aレベルなどの出願条件を満たしていることが必要です。

必要に応じて大学・カレッジ付属の英語コースや語学学校

大学準備課程やカレッジに入学できる学力があれば、「条件付き入学」として英語力を付けることを条件に入学許可を得ることができます。

カレッジ※(2年間) → 卒業

※イギリスの公立カレッジ
オーストラリアのTAFE
ニュージーランドの
ポリテクニックなど

準備課程(ファウンデーションコース)

準備課程は、大学付属機関と私立教育機関で学ぶことができます。大学付属機関のメリットは、その先の大学からの「入学内定」を得て、留学を始められること。一方、私立教育機関の場合、準備課程で学ぶ間に学びたいことを明確にしながら、名門大学を含む多数の提携大学の中から、自分に適した大学を選ぶことができます。

大学入学(3年間)

→ 卒業 / 大学院

先輩たちの体験談

海外の大学で学び、
社会人になった先輩の体験を聞いてみましょう。

大学で身に付けた企画力や積極性が就職活動で評価されました

T.W.さん
グリフィス大学（オーストラリア）
2020年10月卒業
→外資系コンサルタント企業に内定

もともと高校３年までサッカーばかりをやっていて、英語は受験勉強を始めた頃から本腰を入れて学び始めました。以前から異文化に興味があり、親からも海外がいいんじゃないと言われたのが、海外の大学を目指したきっかけです。初めてひとりで海外に行ったので不安はありましたが、大学の進学準備コースが始まってみると、オーストラリアって安全で暖かく、のんびりした雰囲気があり楽しそうだな、と感じました。
大学に入学してからは、読むことは何とかなりましたが、書く・話すのは大変でした。しかし必要な勉強の量がものすごいので、自然と慣れます。その環境に入ってしまうといつの間にかできるようになる、というのが感想です。
専攻はHotel Management & Tourismを専攻するつもりでしたが、入学する時点でEvent Managementに変更しました。最初は旅行業界にいきたいと思っていたのですが、進学準備コースで勉強したとき、より自分で企画できるものを選びたくなったのです。幸い単位の多くが移行できたので、時間も無駄になりませんでした。
大学の授業はイベントを作り上げていくことがメインです。自分でコンセプトを考え、プランを立て、開催地を比較検討し、当日までのタイムラインや予算案を作るところまで行ったので、とても実践的でした。
現在内定をもらったコンサルタント会社では、身に付けた企画力や留学先でもサッカーを継続したこと、現地でいろいろなことに参加した積極性などを評価いただいたようです。外資系の企業なので、留学経験を生かして仕事ができることを楽しみにしています。

興味のある授業をすべて取り多様な意見に触れて視野が広がりました

R.Y.さん
イサカ カレッジ（アメリカ）
2018年5月卒業
→アジアに展開するインテリア企業に勤務

私は高校時代、やりたいことがいろいろあってひとつに絞れませんでした。音楽に興味があったものの、普通の大学の教科も勉強したかったんです。悩んでいるときに、高校の先生から海外の大学はどうかとアドバイスを受け、進学先として考え始めました。
大学はもと音楽大学院だった私立大学です。そこで文化コミュニケーションという専攻をとりました。科目としては社会学や音楽史、世界的エンターテインメント作品に関する分析の授業、昔と今の映画の比較、Web制作から作曲・編曲ビジネスまで、興味のあるものは学部の垣根なく学ぶことができました。
楽しかったし、この４年間が人生でいちばん勉強しました。
大変なこともたくさんあったけど、天気がいいと校庭の芝生に移動するなど、勉強そのものを楽しむ雰囲気がありましたね。
授業では意見交換する時間がたくさんあります。資料を読んで、考えて、発表するとフィードバックをもらえるので、皆で勉強している感があります。教授も質問すると毎回30分、40分と付き合ってくれました。この大学で多くの人と触れ合い視野が広がったし、様々なことに臆せずトライできるようになったと思います。
卒業後は現地のNPO法人で半年インターンしてから日本の企業に就職しました。社内には様々な立場・年代の人たちがいて、意見調整をしつつ自分の意思を伝えることが必要です。そんなときに、大学での体験が生きていることを感じます。居心地のいい場所を出て、何かにトライするのは大変ですが、海外留学すると積極性や困難を乗り越える力は必ずつくと思います。

GE-NET20
海外大学等進学支援
公式ホームページ

https://global10.tokyo/

令和4年5月
発行　東京都教育庁指導部指導企画課
〒163-8001　東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話　03-5320-6867
編集・印刷　留学ジャーナル

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。
R80
古紙配合率80%再生紙を使用